

環境教育事例集（プログラム集）の作成について

1 環境教育事例集の作成

2007年9月に実施したアンケート調査の結果、湿原を題材とする環境教育に取り組んでいる学校の存在が把握できたことから、これらの実施状況を具体的に把握し、事例集として取りまとめる。取りまとめに当たっては、専門家の協力を得て、学校現場で活用可能な内容、形式とするとともに、団体・機関等による釧路湿原を題材とした学校教育への協力事例や意向等の有用な情報を集約し、掲載する。なお、事例集は環境教育WG等で情報を共有するとともに、今後の取り組みへの活用を図る。

また、事例集については、圏域の学校や関係機関等に配布するとともに、WEB等も活用して発信し、普及を図る。また、学校での活用に向けた継続的な働きかけや可能な範囲で導入に向けたコーディネートを行うとともに、引き続き、釧路湿原圏域での環境教育活動に関する情報共有を進め、推進方策を検討していく。

2 小学校・中学校に係るヒアリング状況

(1) 1次ヒアリング終了

ア 釧路町立遠矢小学校（5年総合 / 80時間）

体験学習や調査活動を通して釧路湿原を知り、保全の取組を調べ、各自が出来ることを立案し実践を試みている。

イ 釧路市立光陽小学校（4年総合 / 35時間）

「湿原探索と発見」をテーマに3回のフィールド学習や調査活動を通して、湿原の大切さや問題点などにふれ、地域の自然の素晴らしさを感じる。

ウ 鶴居村立下幌呂小学校（3・4年総合 / 25時間）

春、秋2回のフィールド学習、ふりかえりを通して、湿原を身近に感じ、自然を大切にしようと感じること、自分に何が出来るかみつめることをテーマとして展開。

エ 弟子屈町立奥春別小学校

ふるさと体験学習の中で、釧路川源流の川下り体験、藻琴山登山などを実施。普段行けない所にカヌーで行き、様々な体験をすることが目的。体験だけで終わらせないように、意見発表会などを通して、これからの自分の歩みにどう生かしていくかを考えてもらうようにしている。

オ 鶴居村立鶴居小学校（3年総合 / 55時間）

実際に釧路湿原にふれる3回の自然体験活動から課題を発見し、追求活動を通して釧路湿原の素晴らしさや問題点について考え、自分の言葉で表現していく。

カ 釧路市立愛国小学校

4年生の総合的な学習の時間で実施。湿原に住む動植物について調べ学習を行う。その活動の中で、おたまじゃくしを育て、蛙となる頃に放している。また、博物館から講師を年3回来ていただき、お話ししていただいている。

(2) 今後のヒアリング予定

ア 標茶町内の小学校1校を予定（全校行事 / 半日）

半日を使った全校行事釧路湿原、温根内ビジターセンターの職員に案内してもらい、釧路湿原の動植物を観察学習する。

- イ 釧路市内の中学校 1 校（1 年総合 / 35 時間）
地域を知るをテーマに、各児童にて課題を設定。湿原をテーマに選択する児童もいた。
- ウ 標茶町内の中学校 1 校（1 年総合 / 35 時間）
「標茶の自然」をテーマにグループ単位で調査研究を実施。

3 事例集の掲載内容（括弧内は執筆者等の案）

- ・はじめに（環境教育ワーキンググループ高橋座長）
- ・第一章 釧路湿原を題材とした環境教育について（大森委員）
- ・第二章 小学校・中学校における実践事例（小学校 7 校、中学校 2 校程度）
- ・第三章 協力団体・受け入れ機関・施設 - 対応内容・連携事例等 -（湿原周辺施設、団体等）
- ・資料編
湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査結果 概要版
釧路湿原自然再生事業について

（1）第二章に係る具体的な掲載内容

環境教育指導資料小学校編（国立教育政策研究所 教育課程研究センター発行）第 3 章に掲載されている実践事例と同様の形式で、各紹介事例については、以下のように取りまとめる。

《1 ページ》

単元の概要

（1）単元の概要 （2）環境教育としての視点 （3）教科等の関連

単元のねらい

（1）単元の目標 （2）単元の評価の観点

《2 ページ以降》

指導計画

1～2 ページで指導計画表を掲載。

学習活動の実際

いくつかの時数について、詳細な情報を紹介。

学習内容、教師の指導・支援、評価の視点、予想される子どもの反応、安全管理、準備、資料等の情報のほか、児童からの回答や意見、児童が記載したワークシート等の情報も可能な範囲で掲載。

《各紹介事例の最終ページ》

本事例活用にあたっての補足情報等

担当教諭から、本事例を参考にするにあたって留意すべき点などを記載

再生普及小委員会環境教育WGとして、本事例の活用促進に寄与する情報の掲載

（学習の展開案、利用可能な施設、交通、参考 WEB サイト等参考情報）

(2) 第三章に係る具体的な掲載内容

ア 対象事例について

環境教育ワーキンググループ参加委員、関係機関、施設等のほか、2007年9月に実施した学校教育と連携した活動に関する調査に回答のあった団体等

イ 掲載項目について

教諭等による活用を前提とし、学校が団体や施設と連携した授業展開を検討する上で、判断に足る情報を掲載

名称、連絡先等情報、団体・施設等の概要

設立経緯や活動コンセプト、スタッフ数、活動内容等

対応可能な内容

学校側と連携して実施することを想定した項目立てとする。

- ・実施可能な内容（端的に箇条書きレベル）
- ・対応可能人数、時間数、学年（年令）
- ・必要な費用
- ・実施にあたって団体の役割、学校・教員の役割
- ・実施までの端的な流れ（打ち合わせや下見、事前準備ほか）
- ・その他対応条件、対応可能な内容等

学校との連携事例

紹介できる連携事例があれば、実施内容等を記載。

4 今までの経過と今後の予定

平成 19 年

11月16日：第2回 環境教育WGの開催

12月以降：具体的事例等の把握

学校（担当教諭）への実践内容ヒアリング、協力依頼

平成 20 年

8月4日：第3回 環境教育WGの開催

ヒアリング状況の共有、事例集掲載項目の検討

8月4日以降：小中学校実践事例の編集、追加ヒアリング、執筆依頼

団体・機関等へのヒアリング、執筆依頼

11月中・下旬（予定）：第4回環境教育WG開催

事例集掲載原稿の共有

普及に向けた取り組みの検討

12月中旬（予定）：事例集配布

HPでの公開

学校への普及促進、導入支援等